

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792610016		
法人名	社会福祉法人 啓和会		
事業所名	グループホームあじさい		
所在地	福島県河沼郡湯川村大字浜崎字城東1589-1		
自己評価作成日	平成28年10月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成28年11月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方との関わりを持ち、なじみのある関係性が継続出来、毎日楽しく住み慣れた地域で生活できるよう支援しています。又、利用者様やその家族が求めている事や、思いに添えるように声掛けや、コミュニケーションを図り、良好な関係性作り力を入れています。認知症高齢者の理解についても勉強会や研修などを通じて、事業所内で話し合う機会を常に持ち、気持ちを理解することに努め、利用者様目線での介護の提供を心掛けている。

高齢者活動に熱心な地域性を活かし、行政や地域の行事に積極的に参加し、各種組織と連携を深め、利用者と地域住民との交流を推進している。これまで培った行政との連携を活かし、利用者と家族双方に最適な介護サービスを提供している。職員は利用者の見守りを徹底し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念である「利用者様が住み慣れた地域で暮らせるように」を念頭に、職員間で声を掛け合いながら日々業務を行っている。地域の行事や、地域の方との交流には出来る限り参加し、地域に開かれた施設作りをしている。	利用者が住み慣れた地域の中で生活する、という理念の下に、職員は利用者が自宅にいれど合うのだろうか、という具体的事例を想定して朝礼や職員会議の中で話し合うことで理念を共有している。ケアの中で具体化することで実践に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、地区の介護予防事業にも参加している。地域のボランティアの方との関わりもあり、花植えやラベンダーやカモミールを使ったポップ作り等を一緒にやっている。	町内会に加入し、そば会や健康増進などの地域行事に積極的に参加している。アコーデオンや昔話の地域ボランティア団体とも定期的に交流し、最近では社会福祉協議会の支援活動も加わり、地域の一員としての交流が深まり拡大している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	気軽に話せるような関係づくりを行い、認知症の理解に努めている。又、電話や面会時、ホームの見学時に相談や説明をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営状況や、困りごとなどを会議の中で報告し、意見を頂いている。又、現状についてもお話しし、メンバーの方には理解をして頂いている。	運営推進会議では利用者の状態や事業所の現状について報告し、対応や改善に取り組んでいる。最近では帰宅願望の強い利用者対応についてアドバイスを受け、利用者に着ち着いて過ごしてもらえよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者様の状態に変化が見られた時は、役場や包括支援センターへ相談をしている。又、運営推進会議において、委員に報告をしている。	市町村の担当者とは定期的に、必要に応じて連絡を取り合っている。双方向で連絡し合い、緊密な連携が図られている。事業所主催の敬老会に出席をしてもらう等、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は研修等に参加し、理解を深めるとともに身体拘束をしないケアを常に心がけている。	法人主催の研修会をはじめ外部研修会にも参加し、身体拘束をしないケアについて学んでいる。研修内容は職員会議などで報告して話し合い、理解を共有するとともに、実践に繋がっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加や、職員同士コミュニケーションを取りストレスを溜めない職場作りを心掛けると共に良くないと思うケアの段階でお互いに注意し合ったり、会議で話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用される方はいないが、利用する為に必要な知識や連携方法などを職員全体で理解するよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時契約だけでなく、疑問がある場合には、いつでも十分な説明を行い納得して頂けるようお話ししている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりや、面会や電話対応時に家族の考えや、気持ち、意見を汲み取り、利用者様、家族様が何でも言いやすい関係作りに努めている。	利用者の受診時や、家族の面会等などの機会を活かして意見を聞いている。心の不安定な利用者への対応では家族の要望に応じて、徹底した見守りを心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は定期的に施設を訪問し行事や、会議等に参加したり、利用者様とコミュニケーションに努めている。又職員の働く職場環境を確認し、意見の反映や、質の確保を図っている。管理者は職員からの意見を考慮しながら勤務を組んでいる。	管理者は職員会議や毎朝の申し送り時などの機会を利用して職員から意見や思いを聞いている。洗濯物の交換時に来客や電話、利用者見守りが重なり、職員負担が重くなることもあり、交換を複数回にして時間を短縮し職員の負担軽減を図ったことがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事課を年に1回行い、自己評価や上司評価を参考に給与等に反映させている。又、年度末に自己申告書を職員に申告してもらい、職員の希望や、現状を理解し向上や、やる気につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に事業所内研修や外部研修に参加し、職員の力量や今後の目標に合わせた参加が出来る様考慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で月に1回管理者会議を行い、困りごとや各施設の情報の共有を行っている。又、開催場所を変えながら行い、各施設を見学することで良いところ等を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の実態調査や関係者から生活習慣などの情報を収集し、本人と会話等を通して関わりを持ちながら少しずつ信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に御家族の不安・困っている事や思いに耳を傾け、意向を確認した上で、支援方法等を話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを基に、本人に必要な支援を見極め必要に応じて、他のサービス利用も視野に入れた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様から人生の先輩として野菜の作り方や生活の知恵などを教えて頂きながら一緒に行っている。なるべく利用者様個人の得意な事や、楽しめる方法なども取り入れながら行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の希望があれば本人の体調によって、いつでも外出、外泊の機会を持っていただけるよう支援している。特別な行事には御家族の方にも参加して頂き、一緒にお祝いをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人、地域の馴染みの方に来訪して頂けるよう支援している。又、地域のイベントにも定期的に参加し、関係が途切れないようにしている。	利用者の日常生活の中で、友人や馴染みの人、場所について聞き出し、お墓参りなど外出の機会に活かしている。近所の人が訪れたときはリビングや和室でお茶でもてなし、再訪を要請している。家族にも外食外出を勧めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、見守りながら孤立することがないように、介助や声掛けを行い関わりが継続できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じて、相談を受けたり、可能な範囲で支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の表情や言動の変化に注意して観察を行い、寄り添うことで本人の意向を汲み取り可能な範囲で支援を行っている。	日常生活の中で、昔話をしながら利用者一人ひとりの思いや希望を聞いたり、表情の変化を見ながら把握に努めている。洗濯物の整理や食事の準備に利用者が参加しているが、本人の思いをくみ取った対応で支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の状態を把握しニーズに応えられるよう、お茶の時間や食事、レクリエーション等から日々の生活の中でコミュニケーションを図り、暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を観察し変化がある場合は介護記録や日誌に記入し、申し送り時にも報告し合い、常に情報を共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	遠方在住の御家族が多い為、電話や郵便等で意見を頂き、担当者会議を行い介護計画を作成している。	三ヶ月に1回、介護計画を見直しているが、利用者本人や家族からは直接に、遠くてなかなか面会に来られない家族には電話で要望を聞きながら、かかりつけ医には職員を同行させて意見を聞き、担当職員を交えて介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常のケアについては、毎日の申し送りや、職員会議で話し合い、その都度実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助、美容室、買い物等家族対応が難しい場合は必要に応じて支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行っている行事(歳の神)や地域の集まり(すこやか浜崎)に積極的に参加している。又地域の方々のボランティア慰問を毎月受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の状態を伺いながら、御家族も交えて意向を確認し、必要時はかかりつけ医や協力病院へ同行し状態の報告や相談を行うよう努めている。	家族との受診や職員同行の対応など、利用者や家族の希望に沿って受診できるようにしている。双方ともかかりつけ医の情報は共有して、普段の様子や変化を伝えあうように努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化や異常があれば速やかに医療機関に相談や指示を仰いだり、受診をしている。常に状態の変化や異常の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院等と連携し、早期の段階から情報を共有し、相談を重ね適切に対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関との連携が整えば、看取りまで取り組む方向ではあるが、現在では施設で可能な範囲で対応を行っている。	入居の時に、重度化した場合の事業所としての取り組みを説明し、利用者や家族との意志を確認している。体調の変化によっては入院を検討してもらうなど、家族との連絡は密にして情報共有に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修にて救命講習や事故発生時の対応について学ぶ機会がある。又、急変時の対応方法についても定期的に職員全員で話し合う機会を持ち確認し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月避難訓練を実施するとともに、地域の方に協力して頂けるように、日ごろからなじみの関係が出来るよう努めている。	消防署立会いのもと、夜間を想定した避難訓練をしている。水害時の避難場所について、現在の中学校から利用者が落ち着ける地域公民館に変更できないかなど相談をしながら地域との協力体制を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライドを損ねないよう配慮した言葉かけを心掛けている。	名前を呼ぶ際は、下の名前をさん付けで呼ぶようにして、本人の人格を尊重した言葉かけをしている。入室の時にはノックと声掛けをして入るなど、プライバシーを確保しながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でコミュニケーションを取りながら、本人の希望や思いに耳を傾け、少しでも本人の希望に添えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の作業やレクリエーションは利用者様の気持ちや状態に応じて参加して頂いている。天気の良い日は散歩など希望に合わせた対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の買い物や利用者様の馴染みの美容院へ外出支援等を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と職員で育てた野菜を献立に取り入れたり、彩りも考えた食事の提供を心掛けている。食事の際はカウンターで職員と利用者様がお話をしながら食事を楽しんでいる。	夜勤職員が一日分のメニューを考え、献立表を作っている。菜園での利用者手作りの野菜を利用して肉、魚とバランスを考えた食事を心がけ、利用者と職員が同じテーブルで和気あいあいと楽しい時間を共有している。行事として外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の食事量を考慮し提供するよう心掛けている。水分摂取量の少ない利用者様には、栄養や水分摂取が大切な意味をお話ししながら摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の状態に合わせた口腔ケアの介助を行っている。その際歯磨きやうがい、消毒など声掛けしながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様のタイミングをみて、1人1人に合わせた声掛けや誘導を行っている。夜間の尿量や排泄リズムをとらえてパットの種類を替える等の工夫をしている。	トイレでの排泄を心がけている。利用者にあわせて紙パンツやパット使用も検討しながら取り組んでいる。朝の起きた時やコーヒータイム、昼食の前、就寝前などに見計らって、さりげなく声掛けをしてトイレでの排泄を可能にするよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様の排便状況に応じて食事や水分調整、運動等で生活リズムを整えている。整腸剤や下剤等を使用している方の量や状態をチェック表にて把握している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合や曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調を考慮しているが、ほとんどの利用者様に毎日入浴して頂いている。快適な気分が得られるように楽しく入浴できるような会話や声掛けを心掛けている。	利用者は全員が一人で入浴ができるので、見守りに対応している。季節の折々には菖蒲湯やゆず湯にして、香りを楽しみながら入浴できるように対応している。毎日、午後から夕食前頃までの希望が多く、職員は順番を調整したり要望に応えられるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠しやすい環境を整え個々に合わせたペースで自由に休んで頂けるように支援している。又、利用者様の気分に合わせて、休息の場を提供できるように心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調に変化があった場合や薬の変更時は特に注意しながら観察し、記録に残している。医療機関との連携を取りながら服薬する量が減るよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の皮むき、掃除、裁縫、野菜作り、洗濯物たたみ等利用者様に合わせた役割を持って頂いている。又、ゲームをしたり塗り絵や計算問題、歌などを歌って気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの行事やお花見などに外出したり、外食などを行っている。希望に応じてお墓参りや地域の行事にも参加したり、近所の散歩にも出かけている。	天気の良い日は車イスの利用者も一緒に散歩しながら、景色を楽しんだり近所の人との会話に話が弾んだり気分転換にもなる外出に努めている。花見や紅葉狩り、花菖蒲などの季節に応じた外出にも積極的に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より現金を預かり、買い物への付き添いや支払いの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は利用者様から希望があればいつでも使用できる。会話が難しい場合は職員が伝達するなどして、家族との関係性の継続に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間のガラス窓の多さを活かし季節感や天候の変化を感じ取って頂くと共に、広い縁側で見慣れた風景を眺めることで、解放感と安心感を得られるよう配慮している。	外からの光が良く入り、見晴しがきき季節の変化が感じられる共用空間になっている。室温は利用者にとって居心地が良いように保たれ、居間、食堂には利用者の作品を飾り、和める空間になるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	カウンター席と和室を有しており、それぞれに思い思いの場所で寛いでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	家族と一緒にの写真や外出時や行事の写真を貼ったりと、利用者様にとって居心地がよく安心して生活できるよう配慮している。	室内には備え付けのクローゼットがあり、利用者は小さなタンスや人形、家族との写真など思い思いに品物を持ち込んでいる。室内の壁には行事で撮られた利用者の写真が貼られて、利用者それぞれが居心地の良い居室になるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はすべてバリアフリーとなっており、手すりなどホール内を安全に移動できるようになっている。又トイレなどには目印等を貼り、わかりやすいように工夫している。		